

“喫煙者がかわいそう”の意味を 考えてみよう

北海道教育大学は、大学敷地内全面禁煙です。たばこを自由に吸えないことに対して、非喫煙者からも「喫煙者がかわいそう」という声が聞かれますが、本当に「かわいそう」なのは、どう
いう目に遭ったときでしょうか？

喫煙および敷地内全面禁煙に 関する調査

北海道教育大学は平成20年4月1日から、全5キャンパスで大学敷地内全面禁煙にしています。「桃栗三年柿八年」というわけではありませんが、敷地内全面禁煙の開始から丸8年を前にした平成28年2月、全職員(教員、事務職員、他)を対象に、喫煙および敷地内全面禁煙に関する意識などの調査を実施しました。その結果、本学が敷地内全面禁煙にしていることを67.2%が「良いことだと思う」と評価しているにもかかわらず(図1)、何らかの形で喫煙場所を設けたほうが良いという回答が半数以上にのびました(図2)。同様の調査を、平成28年9月に某キャンパスの学生に実施したところ、職員とほぼ同様に、81.3%が敷地内全面禁煙を「良いことだと思う」と評価しながら(図1)、35.3%が何らかの形で喫煙場所を設けたほうが良いと回答しました(図2)。

こうした傾向は、敷地内禁煙を実施して

いる他大学でも認められ、喫煙場所を設けたほうが良い理由として①大学敷地から出てすぐの場所や近くのコンビニの前にたむろして喫煙する様子が見苦しい②(①)の様子がかわいそう③敷地内だけきれいにして敷地外に煙や吸い殻をまき散らすべきではない④たばこを吸う権利がある、などが挙げられていますが、今回は、このうちの「②喫煙者がかわいそう」について考えてほしいと思います。

喫煙は重い病気にかかり 死亡する原因の第1位

やりたいことをやれないのは確かにつらいことです。喫煙者であれば、吸いたい時に自由に吸いたいです。また、北海道の真冬の屋外で、寒風吹きすさぶ中、寒さに震えながらたばこを吸う痛々しい姿は、見ていて同情を禁じ得ないものがあります。しかし、たばこを好きな場所で好きなように吸えないことと、たばこを吸い続けてガンや心筋梗塞、脳卒中などの重い病気にか

かり若くして死んでしまうことと、いったいどちらがかわいそうでしょうか。

敷地内全面禁煙のように「喫煙場所がない」ことは、喫煙をしにくくさせることにより喫煙者に禁煙を促すきっかけになると考えられています。また、新たな喫煙者を生み出さないようにする有効な手段の一つとも考えられています。敷地内全面禁煙は、喫煙者および非喫煙者双方の健康を守る方法なのです。

これからも北海道教育大学は 敷地内全面禁煙です!

現在、日常的に喫煙している人でも、これから10年間禁煙すれば、心筋梗塞などの病気で死んでしまう危険性を非喫煙者と同様くらいに下げることができます。現在吸っている人はぜひ、学生のうちに禁煙してください。もちろん、吸っていない人は、これからも決して吸わないでください。

(保健管理センター・センター長・羽賀 将衛)

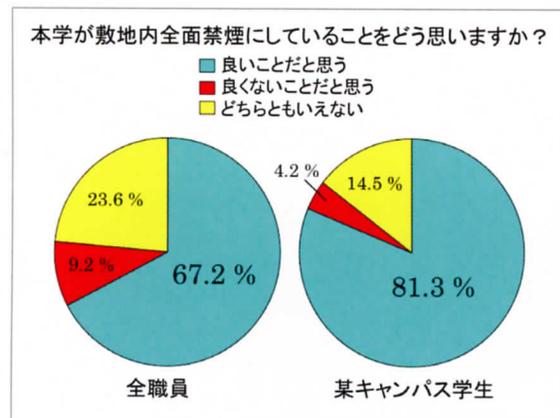


図1

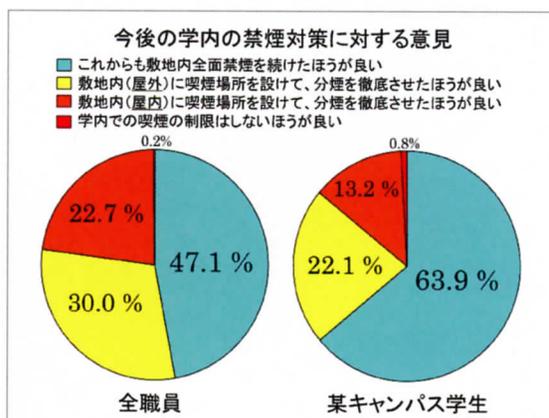


図2